



震災20年、 地区赤十字奉仕団委員長会を開催



挨拶する玉田委員長

3月3日、地区赤十字奉仕団委員長会をひょうご女性交流館(神戸市)で開催しました。奉仕団の皆さんは、県内各市町で防災訓練をはじめ、子育て支援、社会福祉活動支援など地域に根差した活動をおこなっています。このたびは兵庫県支部の平成26年度事業報告をおこなうとともに、平成27年度事業計画について協議いただきました。また、モデル奉仕団として地域で高齢者・子育て支援や防災活動などをおこなった神戸市東灘区、尼崎市、相生市の奉仕団から、それぞれ「第20回梅の宴 震災20年 あの日あの刻 鎮魂の譜」「避難訓練に重点をおいた防災訓練」「西播磨赤十字奉仕団研修大会」についての活動事例報告がありました。阪神・淡路大震災から20年、どの報告も震災の経験と教訓を生かし、地域をあげての防災意識の向上にもつながる特徴的な内容でした。



食を通じた災害への備え



グループで協力して調理中

災害時、ライフラインが途絶えた中でどうやって生活するのか?食を通して考えよう。このような趣旨のもと、2月28日、特別赤十字奉仕団員ワークショップ&交流会を開催。特別赤十字奉仕団とは、さまざまな職種の皆さんが、自身が持つ技術や資格を生かし活動しているボランティアです。今回41人が参加し、ライフラインが途絶えたとの想定で、災害時の食事メニューを考え、調理をおこないました。普段と異なり、限られた環境、食材を使つての調理に戸惑いながら、あるものを有効活用し、洗い物を少なくするための工夫などアイデアを出し合い、また管理栄養士のアドバイスも取り入れ豊富な食事メニューを作られていました。「食材の備蓄の大切さがわかった」「家庭でも実践したい」などの感想もあり、有意義な体験となったようです。

講習のご案内

お問い合わせは、
お電話またはホームページで 078-241-1499 (講習係)

救急法基礎講習
5/31@、6/13@ 13:00~17:30
救急法救急員養成講習(2日間のセット)
6/27@・28@ 9:30~17:30
救急法基礎・救急員養成講習(3日間のセット)
5/10@・16@・17@ 9:30~17:30(初日は13:00~)
6/14@・20@・21@
水上安全法講習(プール講習・4日間のセット)
5/9@・10@・16@・17@ 9:00~17:00(最終日は14:00まで)
幼児安全法講習(2日間のセット)
5/22@・23@ 9:30~17:30

科目別講習	講習の一部のテーマを短時間で習得できます。
健康生活支援講習	だれもが知っておきたい介護の基礎知識 5/24@ 10:00~12:00
健康生活支援講習	認知症高齢者への対応・癒しのハンドケア 5/24@ 13:00~15:00
健康生活支援講習	災害時高齢者生活支援講習 (災害が起こった時、支援できること) 6/6@ 10:00~12:00
幼児安全法講習	乳幼児の災害時支援 6/7@ 10:00~12:00

◇申込期日は開催日(初日)の一カ月前までです。◇会場は日本赤十字社兵庫県支部です。
5月9日(土)、イオン明石ショッピングセンターで救急法ミニ講習会イベントを開催。ぜひ、ご参加ください。

東日本大震災義援金 受付を延長

引き続きご支援を
よろしく願います

受付期間/平成27年4月1日~平成28年3月31日
ご協力方法/各金融機関、クレジットカード、コンビニエンスストア、Pay-easyなどによりご協力いただけます。
※お寄せいただいた義援金は、手数料などを一切いただきず、全額を被災された方々へお届けしています。また、義援金受付に係る事務費は、皆さまからお寄せいただく活動資金により対応しています。
[お問い合わせ先]
日本赤十字社 東日本大震災義援金担当 03-3438-1311 (代表) 受付時間/平日9:00~17:30

ひょうごの 赤十字

2015 April 4月



「阪神・淡路大震災20年 兵庫県支部創立125周年記念シンポジウム」を開催



- お母さんと子どものいのちを守る 派遣要員が帰国報告
- 住民の皆さんのいのちと健康を守るために
- 震災20年、地区赤十字奉仕団委員長会を開催
- 食を通じた災害への備え
- 講習のご案内

日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通1丁目4番5号

078-241-9889



赤十字 兵庫 検索



「阪神・淡路大震災20年 兵庫県支部創立125周年記念シンポジウム」 を開催

近い将来、南海トラフ大地震の発生が確実視される中、全国的な減災・防災への取り組みの契機となった阪神・淡路大震災や東日本大震災での経験と教訓を生かし、さらなる災害救護活動の充実・強化への取り組みが肝要となっています。

そこで、阪神・淡路大震災から20年となる本年、兵庫県支部創立125周年を迎えることから、これまでの災害救護の歩みを踏まえ、災害医療、災害看護などの観点から今後の災害救護のあり方を考える「災害救護のあゆみ ～これまでとこれから～」と題した記念シンポジウムを3月19日、兵庫県看護協会(神戸市)において開催しました。

シンポジウムには約310人が出席。

東日本大震災時に、宮城県の災害医療コーディネーターとして、石巻赤十字病院で地域の災害医療を統括した石井正教授(東北大学病院)による基調講演と、兵庫県災害医療センターの中山伸一センター長を進行役に5名のパネリストによるパネルディスカッションがおこなわれました。



石井正教授による
基調講演の様子



コーディネーター

兵庫県災害医療センター
中山 伸一 センター長

パネリスト

東北大学病院総合地域医療教育支援部
石井 正 教授



パネリスト

石巻赤十字病院
金 愛子 副院長兼看護部長



パネリスト

公益社団法人兵庫県看護協会
中野 則子 会長



パネリスト

日本赤十字社事業局救護・福祉部 救護課
谷田 健吾 課長



パネリスト

神戸赤十字病院
小澤 修一 院長

基調講演では、「東日本大震災における地域災害医療コーディネーションの経験から」をテーマに、大規模災害時には医療活動だけではなく被災地の健康管理のための公衆衛生対策をおこなうことが大切なこと、必要な情報を集めるため300カ所の避難所で調査をおこなったことなどを紹介。このほか災害時に、日本赤十字社に求められる姿についてなど講演いただきました。

また、パネルディスカッションでは、「これからの災害救護で赤十字に求められる役割」をテーマに、阪神・淡路大震災や東日本大震災から得た教訓や気づかされたこと、災害医療、災害看護の視点から、今後の災害救護活動に必要なことなどを討論。災害発生後の救護活動だけではなく、ボランティアや地域の中で防災、減災のための取り組みや災害関連死の防止、こころのケア、支援者へのメンタルヘルスケアなどの体制作りが重要であることが述べられました。

基調講演やパネルディスカッションでのさまざまなご意見を参考に、今後とも災害救護活動のさらなる充実と強化に取り組んでまいります。



お母さんと子どものいのちを守る 派遣要員が帰国報告

～ケニア地域保健強化事業～

日本赤十字社はケニア赤十字社と協力して、2007年から保健医療サービスの強化や住民の健康衛生知識の向上を目的としたケニア地域保健強化事業(別称「愛ホップ(IHOP)」)に取り組んでおり、当支部を含む近畿2府4県(第4ブロック)の支部では長年本事業を支援しています。

1月29日、派遣していた佐野友妃子要員(京都第一赤十字病院)の帰国報告会が開催されました。

ケニア北東部のガルバチュウラ県は、2月でも40度近い気温となる乾燥・半乾燥地域で、深刻な水不足で衛生的な水が手に入りやすく降雨後の水溜りなどからの水汲み、医療機関が遠い、伝統的産婆の介助による出産が主流、子どもの予防接種率が低いなどの環境から、妊産婦や乳幼児の死亡率が国内でも高い地域です。愛ホップの取り組みは、予防接種を受ける子どもや医療施設で安全に出産する妊婦の増加、安全な水の入手による乳幼児の下痢症の減少などの成果につながっています。

佐野要員は、「住民の多くが遊牧民である地域の皆さんの健康を守っていく要はボランティア。ボランティアが持っている保健の知識が増え、伝える技術が向上することが、地域の皆さん、特に母子の健康を守ります。現地の人たちが自発的に健康を守る活動を続けていけるよう、継続的に支援活動に取り組むことが大切」と強調していました。

第4ブロックでは、これからも愛ホップを支援してまいります。



「愛ホップ」の支援で元気に生まれた
赤ちゃんを抱く佐野要員

IHOP: 地域保健強化事業の英語表記Integrated Health Outreach Projectの頭文字



愛ホップの
主な取り組み

- ♥ 地域保健ボランティアの育成
公衆衛生や保健の研修を受け知識を学び住民に伝えていくボランティアを育成しています。ボランティアは村の人たちから選ばれます。
- ♥ 病院のない村での巡回診療
診察や予防接種だけでなく、栄養指導や衛生についての啓発活動もおこなっています。
- ♥ 医療施設の修理や医療資機材の整備
- ♥ ラジオやSNSでの保健衛生情報の発信
遊牧民に予防接種や産前検診の案内を携帯電話を利用して伝えています。



住民の皆さんの いのちと健康を守るために

～県内各市町の災害救援車を配備～

兵庫県支部では、災害時の救護資材や救援物資の搬送など円滑な救護活動をおこない被災者を支援すること、また平時には赤十字活動の推進を図ることを目的に、県内各市町に災害救援車を配備しています。

今回10台を更新し、2月24日に引渡式をおこないました。

これからも皆さんのいのちと健康を守るために各地域で活躍します。

更新した市町

神戸市中央区 神戸市西区 尼崎市 加古川市 洲本市 丹波市
朝来市 福崎町 太子町 佐用町



更新した災害救援車

いのちと健康を守る赤十字活動は、
皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています

活動資金にご協力をお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行からもご協力いただけます

口座記号番号: 01110-0-1136

口座加入者名: 日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取扱いの場合、振込手数料は無料です。